

●漢詩の形式

漢代から起こった「五言詩（一句五字からなる詩）」が、魏晉南北朝に至って詩の主
流となり、末期に「七言詩（一句七字からなる詩）」の発展を促して唐代の成就をみる。
唐が興って百年ほどたった八世紀のころ、「近体（絶句・律詩）」が整い、「古詩」と合
わせて三つの形式が成立する。李白や杜甫はちょうどこのころに生まれ、完成した詩
の形式により縦横に才能を発揮するのである。

●絶句

四句の短詩形である。はじめ、民歌の中から起こった。短詩形の場合は、
機知に富んだ表現で、言外に漂う余韻を尊ぶ。

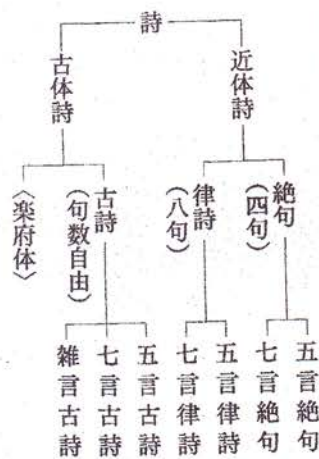
●律詩

八句で、中の二聯（二句を一聯という）は対句仕立てにするきまりになっ
ている。魏晉より、詩が進歩する過程で、無駄な表現を省き、構成に工夫
を凝らした末にたどりついた、極めて整った形式。
はじめから二句ずつを首聯、頷聯、頸聯、尾聯という。

●古詩

句数は自由。したがって五十句、百句と長いものもあり、また四句、八句と、
近体と同じ形のものもある。近体とは違う、古風な味、近体では表せない
複雑な内容を盛りこむ。

■漢詩のかたち



■近体詩の構成

